

# 社会変動と金利等の 関係を理解する

あんびる えつこ Ambiru Etsuko 文部科学省消費者教育アドバイザー  
「子供のお金教育を考える会」代表 (<http://www.kids-money.jp/>)。著書に「アクティブ・ラーニングで楽しく！消費者教育ワークショップ実践集」(大修館書店、2018年)ほか。

## お金理解度チェック

次の①～③のうち、内容が合っていると思うものの□に✓をしましょう。

- ①新型コロナウイルスの流行のような経済に大きなダメージを与える出来事があると、金利は上昇する
- ②景気が良くなり、金利が上がりそうな時には、債券価格は下落する傾向にある
- ③一般的に円高になると、その影響を受けて自動車など輸出を主とする企業を中心に株価が上がる

内容が合っているもの(✓)は……②のみ

新型コロナウイルスの感染拡大は、経済に大きな影響を与えており、日々のニュースでは景気悪化への懸念が報じられています。こうした社会の動きは、私たちの資産運用にどう関わっているのでしょうか。今回は、金利、債券や株式などに与える影響について考えてみます。

## 世界的な超低金利 金利の上昇サインは？

まずは金利の基本的な動きについてみていきましょう。金利は、主にお金の需要と供給のバランスによって決まるといわれています。つまりお金を借りたい人が多ければ金利が上がり、少なければ下がる、というわけです。

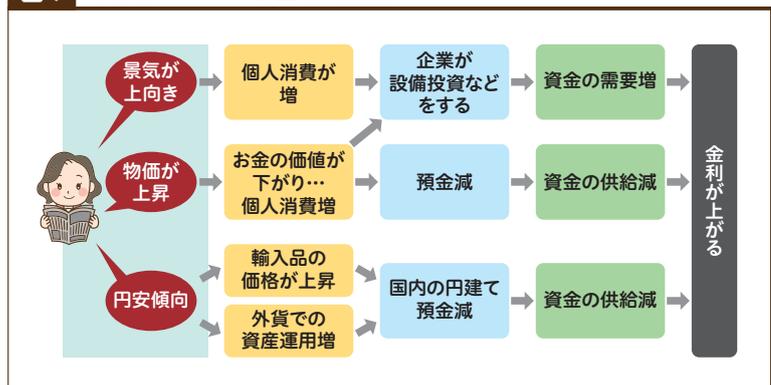
例えば景気が上向く場面では、消費者の購買意欲が増大します。すると、企業はもっと売れるだろうと設備投資をするため、資金需要が増え、銀行は金利を上げてお金を集めようとしています。反対に個人の消費意欲が減退していると、企業は生産を控えるため資金需要が減り、金利が下がると考えられています。

物価の上昇によっても、金利が上

昇するといわれています。今日、1,000円で売っているモノが、1週間後には1,100円になると思えば、皆モノを買っておこうとします。増産しようとする企業の資金需要は増え、一方で貯蓄は消費に回り、資金供給が減ります。そのため金利を上げてお金を集めようとするわけです。

為替も金利に影響します。例えば「円安・ドル高」の場合、円安は輸入品の価格上昇を招き、物価全体を押し上げ、消費者は銀行からお金を引き出してモノを買おうとします。また外貨で資産運用しようとする人も増え、円建て預金の解約が増加し、資金供給が減少します。そこで銀行は魅力的な金利で預金を増やそうとし、円の金利が上がる、といった具合です(図1)。

図1 身近なニュースと金利の関係



日本やヨーロッパでは既に政策金利でマイナス金利を導入していましたが、新型コロナウイルスの蔓延で多くの国・地域が利下げを実施し、今や世界的に超低金利です。先進国は人口の伸びの鈍化による経済成長率の低下、高齢者の貯蓄余剰によるカネ余りなど、構造的な問題も抱えています。コロナ後に金利が上がるかは、新しい産業が芽生え、消費が拡大し、経済を成長軌道に乗せられるかにかかっています。

## 金利や株価が下がると、 債券価格は上がる!?



債券は、国や企業などが発行体となり、投資家から資金を借り入れるために発行する有価証券(国債、社債など)です。満期までの期間、決められた利子を得ることができ、償還日には額面金額で払い戻すことができます。ですから債券の発行体が破綻して債務不履行にならない限り、償還日まで運用した場合の収益額は明確で、社会情勢に左右されることはありません。

一方で、満期を待たずに途中換金することで、債券の価格の上昇による売却益をねらえます。債券価格は、発行体の信用度、格付け、満期までの残存期間などに加え、経済的な諸要因による市場環境の予想などによっても変動します。

発行された時より市中金利が上がっていくことが予想されれば、債券の価格は通常、下落します。債券の多くは、発行時から償還までの利率が変わらない固定金利型ですから、世の中の金利が上昇すれば債券の利回りの魅力が薄れ、債券価格は下落するというわけです(図2)。逆に金

利が下がる局面では、発行時の金利が変わらない債券の魅力が上がり、債券価格は上昇します。

景気が良くなり、株価が上昇し株の魅力が増している場面では、債券価格は下落。逆に景気が悪化し株価が下落すると安全資産である国債などの債券が買われるため、債券価格は一般的に株価とは逆相関の関係といわれています。

また外貨建ての債券で利息や償還金を外貨で受け取る場合、購入時より円安になっていると、円の受取額が増えて為替差益を得ることができます。逆に円高になった場合は、円での受取金額は減り、為替差損を被ることになるので注意が必要です。

## 業績のほかに金利や為替も 株価に影響



株価はもちろん、その企業の業績の影響を強く反映したものです。一方で、さまざまな経済的要因にも左右されます。

金利が下がると、企業は低い金利で設備投資をし、個人もお金を借りて消費しやすくなり景気の回復が予想されるため、株価が上がる要因になるとされています。反対に金利が上がると、借入金が多い企業は支払う利息が増え、株価は下落しやすくなります(図2)。

為替も株価に影響します。「円高・ドル安」になると輸入価格が安くなり、食品や電気・ガスなどの原料を輸入する企業は利益が増加し、こうした企業の株価は上がります。ただ、日本の主要な企業は円安メリットがある自動車などの輸出関連企業が多く、日本の株価は円安の時に上がりやすいといわれています。



ここまで基本的な関係性を、簡潔に説明してきました。しかし現実には単純ではなく、さまざまな要因が複雑に関係し、影響しあっています。いろいろなニュースに接し、「今起きていること」に注目しながら、経済的な見方やセンスを養っていくようにしましょう。

図2 金利、景気と債券価格・株価の関係

